

みやけの風

第 157 号

平成16年(2004年)1月10日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmppo.org

新しい年が、穏やかで光に満ちた年になりますように。
 五日に初出勤したら、『みやけの風』あての原稿が届いていました。皆さまに支えられて、支援センター事務局一同、今年もがんばります。よろしくお願ひ申し上げます。

みんなの声

新年のゆめ

三宅島を離れて、4回目の正月を迎えました。

島恋しいと泣いた日もありましたが、天変地異なのであきらめの境地で、それなりに地域の人たちと交流しながら、住めば都となって、たくましく生きていけるものだと実感いたします。

私は、NHKの朝の連続テレビ小説を楽しみにしています。2000年9月は、和菓子職人を目指す『あすか』でした。その後、『私の青空』、『オードリー』、『ちゅらさん』、『まんてん』、『さくら』、『こころ』に続いて、今『てるてる家族』の放送中です。これだけ長く島を離れていることになりますね。

「三宅島島民連絡会」発行の『望郷』に目を通しながら考えました。東京都をはじめ、多くの団体や個人の方からご支援を受けて、私たちは今日を迎えているのだなあ感謝の気持ちでいっぱいになります。

3月には帰島プログラムの発表もあるそうです。おひとりおひとりに困難なことはありますが、行政の支援をお願いしつつ、我がふるさと自分の家で暮らす土台を作っていきたいです。

島全体に明るい声が響いて、三宅島再生のドラマを、私たちが生本番で演じていく時がもうすぐ来るのです。

緑豊かな平和な島をめざして前進するゆめをふくらませている、2004年の年明けです。（台東区在住 阿古 佐々木美代子）

『田舎もんの幸せ』

元旦、アパートのベランダで、お台場の初日の出を拝み「今年こそ、幸せを私達に下さい」と祈っていました。「ピンポーン」とドアホーンが鳴り「えっ？もう誰か訪問者？」と朝早い訪問者に、ドアを開けました。そこには煮しめやら、数の子、かまぼこ等々おせち料理がきれいに並べられた大きなお皿を持った「隣のおばさん、きぬたおばさん」が立っていました。一瞬、キューンと胸にこみ上げる何かが走りました。嬉しさと感激で、思わずアパートの廊下で「ありがとう」と大きな声を出していました。大晦日から来た息子家族と、おせち料理も作ってないし、材料も買う暇がなかったから、よそからいただいたお餅と残り物の野菜で、せめてお正月らしく、お雑煮位食べようかと話している矢先の訪問者だったのです。私は、暮れに急に倒れた自分の妹の世話で、ずっと病院への通い詰めをしている。そんな私を気遣ったの配慮だと思うと、本当に嬉しく思いました。

辛い年越しをしたけれども、今までの辛さはこの瞬間で消えていました。ご来光への祈りが通じたのだと心からそう思いました。きっと今年は、妹も回復し、自分たち

も島へ帰島がかなうそんな年になるかも知れない。「隣の方は、なにをする人ぞ」の生活から、こんな素敵な田舎もんのつき合いをしてきている「お隣のおばさん」。おせち料理の飾りとして添えられた、千両の実と葉の鮮やかなコントラストが目に焼き付いています。「元旦の幸せ」を有り難うございました。

早く三宅島へ戻って田舎もんのつき合いの出来る生活がしたい。そんな思いをした平成16年の元旦でした。

(港区港南 早川マス子)



三宅島災害・東京ボランティア支援センター構成団体よりのご挨拶

新年のご挨拶

三宅島社会福祉協議会 会長 寺本 達

明けましておめでとうございます。

今年は帰れるか、今年こそは帰れるかと思いながら四度目の正月を迎えました。この間、全国の皆さんから多くのご支援をいただきました。避難先の行政や社会福祉協議会、ボランティアの方々にあらゆる面での支援を受け、力づけられました。特に三宅島災害・東京ボランティア支援センターの私たちに対する支援は言葉で表す事は出来ません。例えば、避難した島民同士が連絡を取れるようにとの電話帳作成、三宅島ふれあいコール、みやけの風、7回ものふれあい集会等々、きめ細かな配慮には唯々感謝するのみです。

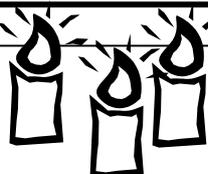
避難先の皆さんやセンターのご支援を受けても、島民にとって慣れない都会での3年数ヶ月の生活の中には苦しいことや困難も多々あったとは思いますが、私たちは三宅島では出来なかった多くの事を経験し学んだのではないのでしょうか。アカコッコ合唱団や避難先地域のグループによる種々の作品作りや踊り等々、島での地域を越えた住民の活動は、三宅島に帰った時、今までにない大きな力になると確信しています。

今年こそは、待ち焦がれた帰島についての明るいニュースが聞きたいものです。今年こそは本当に帰島できるよう祈念し、皆で助け合い励ましあってその日が来るまで頑張りましょう。

年頭のご挨拶

東京ハンディキャブ連絡会 代表 阿部 司

三宅島島民の皆様、2004年の年明けはどのように迎えられましたか。ふるさとを遠く離れてのお正月は、やはり寂しいものがありかと存じます。帰島がかない、気のあった親しい人々と、いつも通りの正月が迎えられる日が一日も早く来ますよう、お祈り申し上げます。東京ハンディキャブ連絡会では、島民の方々の移動をお助けし、少しでも皆さんのお気持ちが明るくなるお手伝いのできればと思っております。



いま、わたしたちに、できること。2004
~ KOBEMEMORIAL 1.17灯りのつどい ~



場 所：東京国際フォーラム地上広場(中庭) (有楽町駅前)

日 時：2004年1月17日(土曜日) 14:00 ~ 18:00

<http://www.tosaibo.net/> にて神戸~東京をつないで同時中継を予定